

シンガーソングライター。自分の想いを形にする。

日々感じた事を歌詞にして綴つてきましたが、こんな風に文章で伝えるのはとても苦手です（笑）。

私自身とても大切にしてきたことを、今日は手紙を書くような素直な気持ちで綴つていこうと思います。拙い文章ですが、どうぞお付き合い下さい。

さて、2007年に全国デビューをしてから、同時にずっと続けてきた事があります。

「花のしおり」と名前を付けて学校回りの活動です。

まずは地元の沖縄からスタートし、約5年半かけて全国飛び回り地道に続けてきましたが、今年の3月、ついに100校を達成しました。

「歌を通して子供たちが何かを感じてくれたら…」そんな気持ちで始めたこの活動ですが、3年半ほど経つた頃、ある一つのテーマに辿り着きました。

それが自分の曲のサブタイトルにも付けている「君は一人じゃない」という言葉です。

ありふれた言葉かもしれないが、その言葉を改めて考えるきっかけを与えてくれたのは、

被災地で出会った東北の仲間たちでした。

東日本大震災後に私が初めて被災地に行つたのは、震災からまだ1か月のことです、その頃はまだ被災された方はみんな避難所で生活していました。食事はもちろん、眠るスペースも分け合いながらの生活は、きっとストレスも溜まり心身共に大変な状況だったと思います。

しかしそんな中でも、助け合う心を忘れていない人たちの姿に私はとても感動しました。

津波で家が流されてしまったにもかかわらず「あの地域の人たちの方が大変だから」と、支給された物資を別の避難所で生活している人たちの元に運ぶ男性や、瓦礫撤去などのボランティアに来た人たちに対しても私はとても感動しました。

「来ててくれてありがとう。いつか絶対恩返しするからね」と温かいお味噌汁を裝つてくれたおばあちゃん。

支え合い、助け合う人たちの心に触れ、いつしか「人はみんな一人じゃない」という想いを、音楽を通して伝えていくべきなのはないかと思うようになります。

学校回りをしていく中で、一

地域の日 Series 32



「君は一人じゃない」

しおり(シンガーソングライター)

人の少女に出会いました。その頃まだ中学生だった彼女は、家庭内の事情から心に大きなストレスを抱え、学校へ行つても保健室に行くのがやつとで、教室まで足を運ぶことができないという状況でした。

そんな彼女を支え続けたのが保健室の先生でした。私の「Smile」という曲をその子に聞かせながら「大丈夫。あなたは一人じゃないよ。」と何度も声をかけたそうです。

そして今彼女は18歳になり、進学ではなく就職という道を選びましたが、中学生の頃とは別人のような笑顔で「仕事が樂しい」と話してくれました。

彼女の輝くような笑顔の裏には、きっと支え続けた保健室の先生の努力があつたのではないでしようか。

今学校では、いじめ問題など

が大きく取り上げられています。

が無邪気に笑う子供たちでも、一人ひとり日々何かと向き合って闘っています。誰にも悩みを告げれず、一人で抱え込んでしまっている人もいるかもしれません。

ただ、みんなに共通して言えることは「一人じゃない」とい

う事。

家に帰れば家族がいて、隣を見れば友達がいて、学校に行けば先生がいて、そしてそれを支える地域の人たちがいる。人が成長するのにはたくさんの人の支えが必要なのです。一人で生きてきた人間なんて誰もいません。なんて偉そうな事を書いてみましたが、私もまだ25歳。まだまだひよっこです。

だからこそ今は、支えてくれた人たちに改めて感謝するべきだと思います。

今こうしてこの文章を読んでくれているあなたが、もし何かを感じてくれたなら、今まで歩んできた道をもう一度振り返ってみてください。きっと、たった一人だけだとしても、あなたの人生になくてはならない人がいるはずです。

そして、支えてくれた人たちに「ありがとう」と伝える。その思いが、いつかくじけそうになつた時、自分自身を強くしてくれるはずです。

歌で人の心を動かすのはそう簡単な事ではありませんが、この声がある限り、当たり前の 中にある大切な事を、伝え続けていこうと思います。